

●レギュレーション

舞台：平安編

シナリオタイプ：対立型

PC人数：5

プレイ時間：3～5時間

サイクル数：3

平安編ルール(うたものがたり[長尾姿
子様著]に収録)の使用を推奨

シノビガミシナリオ

異説・竹取物語

異説・竹取物語

——今は昔、竹取の翁といふものありけり

時は平安、京の都。

当代の帝は歴代でも類を見ないほど風変りな人物で、竹を取っては道具を作ることを趣味としておりました。

人々はそんな帝を敬愛し、「竹取の翁」と呼びました。

あるとき翁が竹林に入ると、光る竹がありました。切ってみると中には三寸ほどのかわいらしい娘。

翁は妻と共にその娘——PC1を育てることにいたしました。

そして、時は流れ。

数年で美しく育った娘はたちまち日ノ本中の評判となり、多くの貴公子から求婚を受けることになりました。

しかし、娘は何故か貴公子達に無理難題を押し付けます。

不審に思った帝はある夜、「なぜそのような難題を貴公子達に押し付けるのか」と問いま

す。娘は月を見て涙を流し、自らが月の都の姫であること、次の満月の夜に月に帰らなくてはならないことを告げます。

そんな、ある月の夜のことでした。

——3人の貴公子が、無理難題を達成して都に帰って来たのは。

◆忙しい人のための導入説明

かぐや姫「いやー辛いわー月に帰らないといけないのにモテて困るわー」

かぐや姫「せや、求婚してきた人たちに無理難題押し付けたろ」

貴公子A「仏の御石の鉢を取ってきました」

貴公子B「蓬莱山の玉の枝を採ってきました」

貴公子C「火鼠の羽衣を獲ってきました」

ABC「『結婚してください』」

かぐや姫「マジかよ」

侍女（大変そうだなあ）

◆シナリオの舞台

このシナリオは平安日本、京の都で雅なロールプレイを楽しむためのシナリオです。

シナリオ構成上、特殊なルールは採用していないので、「戦国編」「現代編」何れかのキャラクター作成ができれば遊ぶことができますが、リプレイ「うたものがたり」収録の平安編ルールを採用することを推奨しています。

シーン表は平安シーン表、もしくは基本シーン表を用いると良いでしょう。

また、このシナリオに登場する国及び人名その他は、実在の人物組織宗教及び神と一切関係はありません。

◆背景

月の都による、日ノ本侵攻計画には未だ1つ、大きな障害がありました。

草薙の剣——正確にはそれを扱う帝の存在です。

帝が存在する限り、侵攻起点である幽月門は一瞬にして破壊され、侵攻計画が成功を収め

ることはないでしょう。

そこで送り込まれたのがPC1です。

計画は順調に進み、後は脱出のための幽月門が完成するのを待って、帝を暗殺するだけでした。

.....が、完璧であるはずの彼らの計画にはいくつもの誤算がありました。

その最たる一つが.....PC1に求婚し、無理難題を押し付けられた貴公子達が、後にシノビと呼ばれる超人であったことです。

◆構造

このシナリオの構造は、若干複雑です。PCの【秘密】を確認しただけでは対立構造が完全に把握できないようになっています。

具体的には以下の通りです。

PC1:PC2,5と対立。

PC2:PC1,PC3,PC4,NPCと対立。

PC3:PC2,PC4,PC5,NPCと対立。

PC4:PC2,PC3,PC5,(NPC)と対立。

PC5:PC1,PC3,PC4,NPCと対立。

NPC:PC1以外と対立。(PC4は条件次第)

草薙の剣を帝(偽)から奪うことができれば、かなり構造は単純化されますが、手数を考えるとかなり厳しいでしょう。

また、このシナリオはGMは歌を詠むマシンになることを想定しているので、導入とクライマックス以外にマスターシーンは存在しません。(選択イベント[後述]を除く)

◆導入

・ハンドアウト

【真の使命】の達成難易度はPCによって異なる。

PC1とPC2が比較的分かり易いため、慣れてない人にはそちらをすすめると良いだろう。

・対立構造が単純化

<草薙の剣>を帝以外のPCもしくはNPCが所持していれば、PC3とPC5が協力できる余地が生まれ、1+4+NPC VS 2+3+5という構図になりやすい。

・完璧であるはずの

ここ、笑うところです

・歌を詠むマシーン

平安編ルールを導入する場合、GMはランダム和歌生成表によって歌を詠まれる機会が多い。

・プライズの扱い

プライズへの情報判定は行えない。プライズにはボーナス効果以上の秘密が無いことを伝えておく。また、プライズの効果を使用するときには、情報をオープンにさせること。

・メインフェイズのマスターシーン

勿論、フレーバー的なマスターシーンは是非入れてもらって構わない。(嘉久が密談をしているシーンなど)

・月夜に想ふ

PC1とPC2が登場するシーンです。

美しい満月の夜、憂鬱な表情をするPC1。それを案じるPC2と帝。

帝は「なぜなぜそのような憂鬱な顔をしておるのだ」と問いかけます。

PC1が月に帰らなくてはいけないことを告げた場合、帝は狼狽して「ならぬ、ならぬぞ」とPC1を説得しようとします。

暫くそのような話をしていると、ドタバタと足音が響き、太政大臣「藤原嘉久」が駆けこんできます。

「も、申し上げます！ 先ほど(PC3)殿、(PC4)殿、(PC5)殿の3名が姫様のご依頼を果たし、帰還いたしました！」

PC達が反応を返したところでシーンを終了します。

・それぞれの無理難題

以下のシーンはPC3,4,5それぞれの導入シーンとなります。

少し時を遡り、それぞれがどのようにして宝物を手に入れたのかを演出してもらいましょう。

以下はシーン演出の1例ですが、PCの希望に応じて好きに変えてもらって構いません。

PC3(仏の御石の鉢)

日ノ本より遙か西。天竺。

PC3は天を衝くかのような巨大な石像に出会います。PC3の望みを聞くと、「そなたが宝物に相応しい者たることを示せ」と言ってPC3と対峙します。

PC4(蓬萊山の玉の枝)

日ノ本より遙か東の海。そこに蓬萊山は位置します。

船で進むPC4。突然船が揺れたかと思うと、巨

大な海龍が現れます。

PC5(火鼠の羽衣)

日ノ本より遙か南の火山。

不尽木と呼ばれる燃えない木の中にその巨大で凶暴な鼠は住んでいます。PC5の姿を認めると襲い掛かってきます。

・御前会議

PC全員が登場するシーンです。

帝の御前。PC全員と藤原嘉久が集められます。

貴公子達が一通り宝物と自身の魅力をアピールした後、帝は上機嫌で

「姫よ。そなたが言い出したことだ。この者たちは約束を果たした。そなたも誠意を持って応えるべきであらう」

と言います。

一通り話を終えた後、藤原嘉久は

「迎えが来る次の満月まではまだ時間があります。ごゆっくり決められるがよろしいでしょう」

と告げ、会議は終わります。

以上で導入シーンを終え、メインフェイズを開始します。

◆メインフェイズ

先述の通り、このシナリオにはメインフェイズ中のマスターシーンがありません。

しかしながら、対立構造を簡単にしたい場合、2サイクル目の終わりに、嘉久(ハンドアウト)が公開されていない場合黒い影)が帝(偽)から剣を奪い取るシーンを挿入すると良いでしょう。

◆クライマックスフェイズ

・導入シーンその2

事前にこのようなシーンがあることを伝えると良いだろう。

勿論、シーン自体をカットしても構わない。

・帝(偽)が戦闘を仕掛けられた場合

帝(偽)はシノビではないため、戦闘開始と同時に脱落するものとして扱う。

満月の夜、逢坂の山の社に、一人の男が立っています。嘉久です。

彼の前には巨大な両開きの門がそびえ立っています。

PC達が現れると、「来たか」と振り返ります。嘉久は白銀の西洋鎧を満月に煌かせながら、PC達に告げます。

「ほう、どうやら失敗したようだな……だが、ここで倒れてしまえば同じことよ」(PC5が草薙の剣を所持している場合)

「ふん、剣なき帝など恐れるに足らぬ」(PC5が草薙の剣を所持していない場合)

「もはや時は満ちた。我が主のため、ここで斃れて貰おう。月面騎士ヨシヒサ。参る！」

嘉久はそう告げると両刃の剣を鞘から引き抜きます。それと同時に門から光が漏れ出します。

この戦闘はPC全員が戦闘終了の意志を示した場合、戦闘が終了します。

また、この戦闘中、PLの意志でPCを死亡させることはできません。

また、プライズの処理はPCの希望に応じさせると良いでしょう。

・嘉久の行動方針

PC1以外の全員を倒そうとします。ですが、PC4の秘密が公開されている場合、攻撃対象からPC4を外します。

◆エンディング

クライマックスフェイズ終了後、生き残った者の前で幽月門が完全に開こうとしています。

幽月門を閉じる場合は、草薙の剣は(もしくは3つの宝物が破壊され、)眩い光を放ち月の門は消滅します。

幽月門が完全に開いた場合は、中から煌びやかな鎧を纏った月の兵士達が押し寄せ、日ノ本は滅亡します。

その後はPCの希望に応じ、好きなエンディングを演出してください。

By etrlud

・藤原嘉久(騎士ヨシヒサ)

中忍頭で作成すること。

必殺技は範囲攻撃を推奨。

・勝利条件についての補足

誰かが幽月門を通過した後に門を閉じることができない。

・死亡できない

PC1「あんたと結婚するくらいなら死ぬ！」を防ぐ為の処置。

そのため平安忍法「絶歌」は取得非推奨。

・結婚条件

データのPC1を戦闘から脱落させ、幽月門を閉じればよい。

・滅亡してしまった場合

「日ノ本を支配することになった月の人々は後に平家と呼ばれることになった」とすると綺麗に収まるだろう。